ウィーン・ロンドンの今昔 ■12■

最近のヨーロッパの３つの変化

日本の影響も

ピアニスト・北海道教育大学岩見沢校准教授　深井　尚子

1年間、私の留学時代のヨーロッパと現在のヨーロッパの変遷をお話ししてきました。私は、1980年代のほとんどをウィーンとロンドンに暮らしていました。帰国後も、ほぼ毎年、ヨーロッパを訪問し、30年以上にわたってその変容を見守ってきたという思いがあります。

変わらないことも多いのですが、実は、日本の影響が感じられる事柄もあります。

1つ目は、路面電車や鉄道の接近表示や時刻の表示版です。日本では、当たり前に、あと何分で次の列車が来るのか表示がありまして、列車が来るときは、アナウンスとともに到着が知らされます。以前は、「白線の内側にお下がりください」が画一的であるなどの批判もありましたが、現在では、ヨーロッパ、特にウィーンでも同じようなアナウンスや掲示がされるようになりました。少し前のヨーロッパは、列車はよく遅れましたし、それでもほとんどアナウンスもなく、次の停車駅名をたった1度だけ言う、という不親切なものでした。しかし、最近は、電光掲示板で、次の電車が何分後に着くのか、何分遅れるのかなどが、知らされるようになっています。長年、ウィーンの様子を知っている私は、この掲示板を見たとき、いよいよ、ウィーンでも日本風の親切心が取り入れられたことにとても驚きました。

2つ目は、水です。昔からヨーロッパでは、水道水はほとんど飲まず、水は買うものでした。当時は、炭酸水しか売っていませんでした。水イコール炭酸水で、当時の日本人観光客は、まず、水は夕ダではない上に、すべて炭酸水ということに閉口していました。しかし最近は、炭酸なし、微炭酸、普通の炭酸、強炭酸と4種類のミネラルウォーターが売られています。逆に、日本では、最近、炭酸水が人気で、スーパーでも簡単に手に入るようになっていますよね。水については、世界でグローバル化が進んでいるように思います。

今年の3月、つい最近ですが、学生を連れてウィーン研修旅行に行ったとき、3つ目の、驚くべき変化に遭遇しました。それは、ヨーロッパの伝統的な風習、「チップ」のことです。今も、日本人にとって「チップ」の存在は、頭を悩ませることの一つだと思いますが、大人であれば、代金の10%くらいは、さりげなく置いていくのが当たり前でした。しかし、ウィーンの旧市街の少々モダンなカフェに入りましたら、なんと、レジで支払い、チップは払わなくてもいいというシステムになっていました。一般的にカフェやレストランでは、テーブルごとに係のウェイター、ウェイトレスが決まっていて、彼らは、大きなお財布を持っていて、そこで代金とチップを上乗せして支払うのですが、この「チップ」の歴史は長く、18世紀までさかのぼるといわれています。しかし、オーストリアの現在の若き首相が、チップというあいまいな支払方法を変え、メニューに書かれた代金以上の収入（つまり、チップ）にも税金を掛けるなどの政策を打ち出したようで、この200年以上続く、悪しき習慣（?）、または、古き良き時代の鷹揚さを廃止する方向に向かっているようです。まだ、チップが生きているお店がほとんどですが、これから徐々に廃止されていくのではないかと予感させます。

この1年、30年のヨーロッパの変遷を見てきましたが、このタイトルの連載は今月で終わります。また、来月からは新しいテーマでお話ししたいと思います。

陽彩 随筆

創作四字熟語あれこれ

堀　利幸

住友生命が創作四字熟語を初めて公募したのが平成二年だった。誰もが知っている四字熟語の漢字の一部や音読みと同じ漢字で異なる思いを四つの漢字で風刺したり讃えたりする。

初年度に選ばれたのは『異旗統合』（「意気投合」。東西ドイツ統合）。軽妙な文字の入換でその年の象徴的な事象を確かめることができる。それぞれの作品に納得したり、吹き出したりする日本語パロディなのだ。

僕は夢中になって楽しませてもらった。作品によっては当て字や読み方に無理があったりするが、回数を重ねると「平成の世相を反映している」と評判になった。

平成もあと一年で元号が変わる。そう思うと急に思い出して調べてみたら、まだ続いていた。昨年の作品には『金曜感謝』（「勤労感謝」。プレミアムデーの導入。金曜日は残業なし）とか、『棋聡天才』（「奇想天外」。将棋の藤井聡太棋士の活躍）がある。

懐かしくなって初めの頃を確かめた。平成二年にはほかに『山死水迷』（「山紫水明」。自然破壊）。『閉口官閣』（「平衡感覚」。官僚・閣僚の行動に閉口）がある。三年には『皆老童欠』（「偕老同穴」。少子高齢化社会への不安）。『大偽明文』（「大義明文」。選挙や国会答弁）。『一児停子』（「一時停止」。一人っ子増大）があり、作者はその時代をみごとにとらえていたのだ。

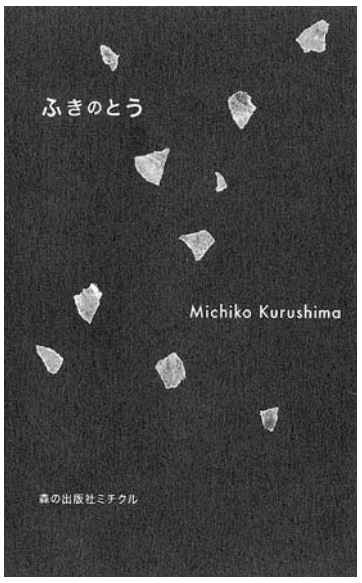
四年には『紫煙楚歌』（「四面楚歌」。フランスで禁煙令施行）。五年には『震傷膨大』（「針小棒大」。阪神淡路震災は人々の心にも傷）と続く。年代は飛ぶが、十四年には『日本熱湯』（「日本列島」。サッカーW杯で日本中が熱狂）もある。二十一年には『苦労長寿』（「不老長寿」。高齢者対策不評）とあった。

その年ごとに、そうだよなと納得する作品がいくつもある。最初のころ僕も挑戦してみた。それをメモ帳で確かめると『口党無形』（「荒唐無稽」）とあった。意味も思いも省略するが、入選には及ばなかった。

読むなら読まねば ■7■

フキノトウの成長を切り絵で

本紙記者　末永　直樹



「ふきのとう」
森の出版社ミチクル　來嶋　路子作

記者は小学生時代、救いようのない阿呆だった。

飛べないカラスをランドセルに入れようとして返り討ちに遭った。授業中、教科書の上にへそのゴマを並べて先生に怒られた。学校の汲み取り式便所にふざけて上履きを落とした。阿呆が絶頂に差し掛かった小学3年のころに、何がきっかけだったか忘れたが、詩を書くようになった。題材は身の回りの自然のことだった。あんまりたくさん詩を書くものだから、デレキで上履きを拾ってくれた先生が詩集を作ってくれた。気が変になりそうなくらいうれしかった。

そんな一連の記憶が、「ふきのとう」を読んでドッとあふれ出てきた。

本書は、フキノトウが成長する過程を白黒の切り絵で表現した小さな絵本。東京出身で栗沢町美流渡に住む來嶋路子さん（45）が、7月に立ち上げた「森の出版社ミチクル」から出版した記念すべき1冊目で、作者は來嶋さんその人である。

静謐だ。言葉は限りなく抑制されている。耳を澄ませば、フキノトウの息吹が聞こえてくるようだ。ダイナミックに変化するさまは生命の躍動感そのものだろう。モノクロームのフキノトウは、読む者に遠い記憶をも呼び起こすに違いない。

來嶋さんは、今後も北海道の自然や人々の営みをテーマにした本を編むそうだ。「北海道でしかできない本作りをこつこつ続けたい」と話す來嶋さんの次作が楽しみである。

他方、記者は長じて阿呆がいくらか減じた代わりに、自然にあまり目を向けなくなった。忙しなく日々を過ごしているせいもある。反省しなければなるまい。週末は自然と戯れに美流渡へ行こう。るーるるる。

（森の出版社ミチクル、500円）

郷土文芸

美唄かげろう俳句会

さき竹を剥きし浮き草稼業閉じ　岡田　春水
現し世の名も身も捨てし落とし文
夏帽子風に脱がされ影も脱ぎ

中空知の郷土文芸

花林短歌会滝川支部

保育歴五年を誇る孫の顔卒園式に花束いだく　石山　キエ
学び舎の心に残る忘れ物卒業しても何時か集めに　柏葉　武雄
二年ほど会へぬ孫からメール着く明日は伽苗の卒業式です　苫米地久枝
今風の卒業式にハイカラさん矢絣袴の仲間とピース　土居美恵子
父の転勤卒業証書もらへずに未だに私は中学生なの　大江ミヨ子
白髪染め化粧もきっぱり卒業すとはゆかぬなり紅き唇　貝森久仁子
捨てる物あれやこれやとその中にシール一枚貼られた吾か　苫米地久枝

赤平俳句連盟

東西に聖火と戦火春寒し　横山　冬青
水槽のどぜう顔出す四温かな
下萌ゆる花鳥諷詠しておりぬ
独り居の眼に問ひ掛けるシクラメン　佐藤　雅雄

船型のメロンの試食迷いけり　開　昌女
梅雨に入り雑草にわかきそい立ち
雨上がり草むす畑に蝶のとぶ　原野　靖女
白髪の少しなびきし初夏の風
老い集ひ笑い話に花咲けり　金田　洋女
山葵沢（伊豆）友と語らい歩みたり
夏至の雨亡き夫忍ぶ花菖蒲　細田　喜久女

本ベスト10

喜久屋書店岩見沢店（7／16～7／22）

単行本

①下町ロケット ゴースト	池井戸潤（小学館）
②未来	湊かなえ（双葉社）
③か「」く「」し「」ご「」と「」	住野よる（新潮社）
④むすびつき	畠中恵（新潮社）
⑤かがみの孤城	辻村深月（ポプラ社）
⑥みそ汁はおかずです	瀬尾幸子（学研プラス）
⑦証言 大谷翔平 大リーグを変える…	野村克也他（宝島社）
⑧モーリー４９	（北海道新聞社）
⑨認知症の脳もよみがえる頭の体操	川島隆太（アチーブメント）
⑩身のまわりのすごい技術大百科	涌井良幸（KADOKAWA）

「下町ロケット ゴースト」
大人気シリーズ、待望のシリーズ第三弾！

文庫本

①検断 聡四郎巡検譚２	上田秀人（光文社）
②維新始末	上田秀人（中央公論新社）
③過ぎ去りし王国の城	宮部みゆき（KADOKAWA）
④未来のミライ	細田守（KADOKAWA）
⑤羊と鋼の森	宮下奈都（文藝春秋）
⑥椿落つ 新・酔いどれ小籐次 11	佐伯泰英（文藝春秋）
⑦また、同じ夢を見ていた	住野よる（双葉社）
⑧新卒ですが、介護の相談うけたまわります	いぬじゅん（講談社・一迅社）
⑨激突 帳尻屋仕置７	坂岡真（双葉社）
⑩脅迫者 警視庁追跡捜査係	堂場瞬一（角川春樹事務所）

記事・写真を「永遠」に！

【見本】フレーム付・写真はカラー

ご家庭、会社内の掲示、
お店のＰＲ用に。
または親戚や友人への
「贈り物」にどうぞ。

4切サイズ（35.5×30.5cm）3,000円

●プレス空知に掲載された記事と写真を額にお入れします。
●ご注文には、掲載日と掲載面をお知らせ下さい。
●ご注文から仕上がりまで7日～10日ほどお時間をいただきます。
●仕上がり次第ご連絡を致しますので、受取に来ていただきます。
●記事量や写真のサイズによって、掲載されたレイアウトと異なる場合がございます。ご了承ください。

プレス空知フォトサービス

プレス空知に掲載された写真をお分け致します。
受付時間／午前9:00～午後5:00（土曜正午まで）

【価格表】
■L　判　8.9cm×12.7cm…　200円
■キャビネ　13.0cm×18.0cm…　400円
■6ツ切り　20.3cm×25.4cm…1,700円
■4ツ切り　25.4cm×30.5cm…2,300円
［すべてカラー・税込価格］

※写真サイズの比率により、仕上がりが上記サイズと異なる場合があります

《ご本人様が被写体の場合、1枚目のみ 100円引きさせて頂きます。》
※但し、キャビネサイズ以上のご注文に限ります

●ご注文には、掲載日と掲載面をお知らせ下さい。
●ご注文から仕上がりまで7～10日ほどお時間をいただきます。
●仕上がり次第ご連絡致しますので、受取に来ていただきます。
●掲載写真は紙面に合わせて加工しているため、実際の仕上がりと異なる場合がございます。
●著作権や肖像権の問題から提供できない写真もございます。
●他の印刷物等への転載はご遠慮下さい。

お問い合わせ お申し込みは… プレス空知岩見沢支社　岩見沢市9条東1丁目　☎(0126)22-3700